

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																						
専門学校 デジタルアーツ仙台		昭和51年3月31日		菅原 崇博		〒 980-0014 (住所) 宮城県仙台市青葉区本町2丁目11-10 (電話) 022-221-1114																																						
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																						
学校法人菅原学園		昭和35年3月26日		菅原 一博		〒 980-0014 (住所) 宮城県仙台市青葉区本町2丁目11-10 (電話) 022-221-1111																																						
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																																						
文化・教養	専門課程	ミュージックスタッフ科 コンサートプロデュース専攻		平成22(2010)年度	-	平成27(2015)年度																																						
学科の目的	イベント・コンサート業界に従事するために求められる実践的な企画・制作における職業能力、教養を身につけ、業界の発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。																																											
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	コンサート、イベント業界への就職を目指し、業界で活躍する方を講師として迎え、実践的な授業を実施している。資格は舞台機構調整技能検定を受験し、中退率は1.6%。																																											
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																																				
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,980 単位時間 単位		420 単位時間 単位	240 単位時間 単位	1,320 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位																																				
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率																																							
120人	122人	0人		0%	2%																																							
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>:</td><td>57</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>:</td><td>57</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>:</td><td>50</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>:</td><td>23</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>:</td><td>88</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>:</td><td>46</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>:</td><td>88</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>:</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td>:</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>卒業者数の割合はミュージックスタッフ科全体の情報です。</p> <p>(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 令和5年度卒業生 株式会社東北シミズ、株式会社ジャパンテレビ、株式会社エンジニア・ライティング、株式会社東北共立、株式会社MSI JAPAN、株式会社響映、</p>								■卒業者数(C)	:	57	人	■就職希望者数(D)	:	57	人	■就職者数(E)	:	50	人	■地元就職者数(F)	:	23	人	■就職率(E/D)	:	88	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	46	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	88	%	■進学者数	:	0	人	■その他	:		
■卒業者数(C)	:	57	人																																									
■就職希望者数(D)	:	57	人																																									
■就職者数(E)	:	50	人																																									
■地元就職者数(F)	:	23	人																																									
■就職率(E/D)	:	88	%																																									
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	46	%																																									
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	88	%																																									
■進学者数	:	0	人																																									
■その他	:																																											
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載			#REF!		評価結果を掲載したホームページURL																																						
当該学科のホームページURL	https://das.ac.jp/subject/music_staff/																																											
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,980 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>120 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,980 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>120 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位</td></tr> </table>								総授業時数	1,980 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,980 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間	総単位数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した演習の単位数	単位	うち必修単位数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位								
総授業時数	1,980 単位時間																																											
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間																																											
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																											
うち必修授業時数	1,980 単位時間																																											
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間																																											
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																											
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間																																											
総単位数	単位																																											
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位																																											
うち企業等と連携した演習の単位数	単位																																											
うち必修単位数	単位																																											
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位																																											
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位																																											
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位																																											
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して6年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して6年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2人	計	3人	2人																								
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して6年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3人																																											
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人																																											
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	人																																											
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	人																																											
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2人																																											
計	3人																																											

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業が求める人材と、学校の人材教育目標が合致するよう連携を強化する。また、カリキュラムの編成にあたっては、「教育課程編成委員会」の意見の他、実際に講義を行ってもらい、業界知識の獲得を授業内へ取り入れる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校法人菅原学園専門学校デジタルアーツ仙台が、実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程(カリキュラム)の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)に活かすことを目的として、教育課程編成委員会として位置付けている。

活用の流れは、具体的には、学科担任がカリキュラム案を提案、教育課程編成委員会にて審議されたのち、教頭並び

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

#REF!

名前	所属	任期	種別
冬木 真吾	一般社団法人 日本音楽スタジオ協会 理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	①
石川 智英	株式会社東北共立 営業部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	③
日下 邦明	株式会社エフェクト 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	③
武藤 政寿	公益社団法人 定禅寺ストリートジャズ フェスティバル協会 代表理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	①
渡邊 孝博	株式会社オンサイト 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	③
小野寺 千代志	株式会社 EAM 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	③
井村 修	専門学校デジタルアーツ仙台 副校長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	—
石田 拓	専門学校デジタルアーツ仙台 ミュージックスタッフ科 科長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年に2回以上開催する。開催時期については、カリキュラムの検討時期及び、外部委員の方々の都合等を総合的に判断して決定する。

(開催日時(実績))

第1回 令和6年8月27日(火)

第2回 令和7年2月予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

企業と連携をとり、学生が在学中から音楽産業の現場と同様の実習を実施する。また、コミュニケーション能力の重要性をご指摘頂いており、業界で重要とされているコミュニケーション能力をつける指導を取り入れ、希望する業界への就職を目指す。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実際のコンサート、公演への現場実習への参加で実践的な技術・知識を身につける。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実際に実務にあたり、実践を行う

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
コンサート実践(1)	企業担当者との現場実習	授業で学んだ知識、技術を活かす場として、コンサート、イベント会場でスタッフとして参加、まずは技術よりも、裏方スタッフとしての礼儀や基本的な動きを学びます。	公益社団法人 定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会 (株)エフェクト
コンサート実践(2)	企業担当者との現場実習	授業で学んだ知識、技術を活かす場として、コンサート、イベント会場でスタッフとして参加、まずは技術よりも、裏方スタッフとしての礼儀や基本的な動きを学びます。	公益社団法人 定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会 (株)エフェクト

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 教職員という立場に於いて、現場での最新の情報・技術・知識を得られる機会は非常に少なく、積極的に研修会等に参加し、学生に享受する知識・技術等を獲得する。また、人間力の向上に向けた指導が出来るよう勉強会、講習会、特別授業の実施をおこなっていく。 なお、現在は「学園規程集」における「教育訓練規程」を別途設けて運用している。	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 #REF!	
(2) 研修等の実績	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: HightSchoolPremiumLive	連携企業等: 宮城県高等学校文化連盟
期間: 2024年8月5日(月)～2024年8月6日(火)	対象: 教員
内容: コンサートの運営、音響照明業務の実践	
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 専門学校の外環境の共有に関するセミナー・会合	連携企業等: 専修学校連合会など
期間: 2023年10月～2024年3月	対象: 学校関係者教職員など
内容: 専門学校が置かれる外環境を適切に認識し、今後の専門教育、学校運営に役立てるための知識共有を行うセミナー・会合に参加する。喫緊では、全国専修学校総合連合会東北ブロック大会への参加も予定している。	
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	

(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	高校生対抗バンド合戦	連携企業等: 宮城県高等学校文化連盟
期間:	2024年11月2、3日(土、日)	対象: 教員
内容	イベントの運営、音響照明業務の実践	
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	専門学校的外部環境の共有に関するセミナー・会合	連携企業等: 専修学校連合会など
期間:	2024年10月～2025年3月	対象: 学校関係者教職員など
内容	専門学校が置かれる外部環境を適切に認識し、今後の専門教育、学校運営に役立てるための知識共有を行うセミナー・会合に参加する。喫緊では、全国専修学校総合連合会東北ブロック大会への参加も予定している。	
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校法人菅原学園専門学校デジタルアーツ仙台が、実践的かつ専門的な職業教育にかかる活動等を評価し、その自己評価結果を企業等の役員及び学校関係者と評価することにより、学生等が関係業界等のニーズを踏まえた質の高い職業教育を享受することを目的として、学校関係者評価委員会を設け、企業と連携をとり学校運営、教育活動に最大限反映させ、その内容を公開する

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	教育成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

自己評価表をもとに、学校関係者評価委員側から人材育成・教育理念、教育内容が「学生・保護者・採用企業・地域社会」等が求めるものと合致しているか、確認している。専門学校は「教育の質の保証」の責任を負っており常に「教育の質」を高める努力が必要であることを再認識した。

具体的には、現場実習を行っている企業からの評価として、コミュニケーションスキルはもちろん必要であるが、物を作るスキルが必要であるとの指摘を受けた。スキルを習熟するために現場を昨年度より増やしより学生により多くの経験を積ませるようにした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

#REF!

名前	所属	任期	種別
渡邊 孝博	株式会社オンサイト 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
小野寺 千代志	株式会社 EAM 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
布川 博士	岩手県立大学ソフトウェア情報学部 教授	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	有識者
岸浪 行雄	株式会社東北共立 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
金塚 弘	株式会社メディアPR 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
武藤 政寿	公益社団法人 定禅寺ストリートジャズ フェスティバル協会 代表理	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	業界団体
播磨 亮達	株式会社BBグラフィクス 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	業界団体
落合 泰朗	本町新光町内会会長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	町内会
川北 カ斗	卒業生 (株式会社エドワードアンドカンパニー執行役員)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.sugawara.ac.jp/digital/about/iissen/>

公表時期: 令和6年8月

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

専門学校は、学生・保護者・採用企業・地域社会に対して「教育の質の保証」の責任を負っていることを認識し、ホームページ等において学校の情報を積極的に公開する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育目標、人材育成像
(2)各学科等の教育	各科の特色
(3)教職員	専任教員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	教育成果
(5)様々な教育活動・教育環境	教育設備
(6)学生の生活支援	学生支援
(7)学生納付金・修学支援	学生募集
(8)学校の財務	財務
(9)学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.sugawara.ac.jp/digital/about/jissen/>

公表時期: 令和6年8月

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			キャリアデザイン(1)	ビジネス能力検定2級取得を目指し、ビジネスマナーを学びます。	1通	60	4	○			○	○			
2	○			キャリアデザイン(2)	履歴書の書き方や面接練習などを就職活動に必要な知識を学びます。	2通	60	4	○			○	○			
3	○			ビジネスソフト実習	就職した際に使用するビジネスソフト(Word, Excel, Illustrator)の操作法を勉強します。	1通	60	4			○	○	○			
4	○			音楽理論	楽譜の読み方や楽曲の構成など、楽曲を分析するために必要な知識を学びます。	1通	60	4	○			○			○	
5	○			基礎電気概論	機材を動作させるために必要な電気の基礎知識を学びます。	1通	60	4	○			○			○	
6	○			舞台機構調整技能講座(1)	舞台機構調整技能士3級の取得を目指し、筆記・要素、それぞれの試験対策の授業を行います。	1通	60	4	○			○	○			
7	○			イベントプロデュース演習	イベントの企画制作を行うために必要な、企画書の書き方や、台本の書き方を学びます。	1通	60	4	○			○			○	
8	○			舞台美術実習	舞台美術やテレビ番組のセットを製作するために必要な知識や技術を学びます。	1通	60	2			○	○			○	
9	○			ステージライティング実習(1)	基本的な舞台照明の仕組みや仕込み方、オペレート方法を学びます。	1通	##	4			○	○	○			
10	○			音響概論	音の仕組みや音響機材の仕組みについて勉強します。	1通	60	4	○			○			○	
11	○			PA・SR実習(1)	音響機材を使用しながら、機材の操作方法や仕込み方を学びます。	1通	##	6			○	○	○			
12	○			レコーディング実習(1)	レコーディング機材の操作方法やマイキングについて学びます。	1通	##	4			○	○			○	
13	○			DAW実習(1)	音楽の編集、収録に必要なDAWソフト(Protools)の操作方法を学びます。	1通	60	2			○	○			○	
14	○			舞台機構調整技能講座(2)	舞台機構調整技能士3級の取得を目指し、筆記・要素、それぞれの試験対策の授業を行います。	1通	##	4	○			○	○			
15	○			舞台演出実習	ステージの演出方法や構成方法について学びます。	2後	60	2		○		○			○	
16	○			エンターテイメントビジネス	音楽ビジネスに必要な印税や著作権の知識、現在の音楽市場について学びます。	2通	60	4	○			○			○	
17	○			コンサートプロデュース実習	コンサートやイベントの制作方法や企画書の書き方を実践的に学びます。	2通	##	8			○	○			○	
18	○			デザインソフト実習	チラシの作成や写真加工に必要なデザインソフト(Illustrator, PhotoShop)の操作方法について学びます。	2通	##	4			○	○			○	
19	○			プロモーション演習	広報活動において必要なメディアの知識やアポイントメントの取り方、プロモーションまでの段取りについて学びます。	2通	##	8	○			○	○	○	○	
20	○			ステージ企画・構成演習	イベント制作における企画・演出について学びます。	2通	##	8	○			○	○	○	○	
合計						22	科目	92 単位(単位時間)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等
卒業要件： 所定の単位を取得し、かつ、卒業判定会議に諮り、学校長がその科	1学年の学期区分
履修方法： 各課程のカリキュラム表に定められた教科目を履修	1学期の授業期間
(留意事項)	2期 15週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																														
専門学校 デジタルアーツ仙台		昭和51年3月31日		菅原 崇博		〒 980-0014 (住所) 宮城県仙台市青葉区本町2丁目11-10 (電話) 022-221-1114																														
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																														
学校法人菅原学園		昭和35年3月26日		菅原 一博		〒 980-0014 (住所) 宮城県仙台市青葉区本町2丁目11-10 (電話) 022-221-1111																														
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
文化・教養	専門課程	ミュージックスタッフ科 舞台美術照明コース		平成22(2010)年度	—	平成27(2015)年度																														
学科の目的	イベント・コンサート業界に従事するために求められる実践的な企画・制作における職業能力、教養を身につけ、業界の発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。																																			
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	コンサート、イベント業界への就職を目指し、業界で活躍する方を講師として迎え、実践的な授業を実施している。資格は舞台機構調整技能検定を受験し、中退率は1.6%。																																			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,980 単位時間 単位		420 単位時間 単位	240 単位時間 単位	1,320 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率																															
120 人の内数	133 人	0 人		0 %	2 %																															
就職等の状況	<p>■卒業者数(C) : 57 人</p> <p>■就職希望者数(D) : 57 人</p> <p>■就職者数(E) : 50 人</p> <p>■地元就職者数(F) : 23 人</p> <p>■就職率(E/D) : 88 %</p> <p>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 46 %</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 88 %</p> <p>■進学者数 : 0 人</p> <p>■その他</p> <p>卒業者数の割合はミュージックスタッフ科全体の情報です。</p> <p>(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 令和5年度卒業生 株式会社東北シミズ、株式会社ジャパンテレビ、株式会社エンジニア・ライティング、株式会社東北共立、株式会社MSI JAPAN、株式会社響映、</p>																																			
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載			#REF!		評価結果を掲載したホームページURL #REF!																														
当該学科のホームページURL	#REF!																																			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,980 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>120 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,980 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>120 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位</td></tr> </table>								総授業時数	1,980 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,980 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間	総単位数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した演習の単位数	単位	うち必修単位数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位
総授業時数	1,980 単位時間																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間																																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																			
うち必修授業時数	1,980 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間																																			
総単位数	単位																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位																																			
うち企業等と連携した演習の単位数	単位																																			
うち必修単位数	単位																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位																																			
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位																																			
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>3 人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1 人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>2 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3 人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3 人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1 人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2 人	計	3 人	2 人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3 人																																			
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1 人																																			
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	人																																			
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	人																																			
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2 人																																			
計	3 人																																			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業が求める人材と、学校の人材教育目標が合致するよう連携を強化する。また、カリキュラムの編成にあたっては、「教育課程編成委員会」の意見の他、実際に講義を行ってもらい、業界知識の獲得を授業内へ取り入れる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校法人菅原学園専門学校デジタルアーツ仙台が、実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程(カリキュラム)の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)に活かすことを目的として、教育課程編成委員会として位置付けている。

活用の流れは、具体的には、学科担任がカリキュラム案を提案、教育課程編成委員会にて審議されたのち、教頭並び

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

#REF!

名前	所属	任期	種別
冬木 真吾	一般社団法人 日本音楽スタジオ協会 理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	①
石川 智英	株式会社東北共立 営業部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	③
日下 邦明	株式会社エフェクト 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	③
武藤 政寿	公益社団法人 定禅寺ストリートジャズ フェスティバル協会 代表理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	①
渡邊 孝博	株式会社オンサイト 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	③
小野寺 千代志	株式会社 EAM 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	③
井村 修	専門学校デジタルアーツ仙台 副校長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	—
石田 拓	専門学校デジタルアーツ仙台 ミュージックスタッフ科 科長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年に2回以上開催する。開催時期については、カリキュラムの検討時期及び、外部委員の方々の都合等を総合的に判断して決定する。

(開催日時(実績))

第1回 令和6年8月27日(火)

第2回 令和7年2月予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

企業と連携をとり、学生が在学中から音楽産業の現場と同様の実習を実施する。また、コミュニケーション能力の重要性をご指摘頂いており、業界で重要とされているコミュニケーション能力をつける指導を取り入れ、希望する業界への就職を目指す。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 実際のコンサート、公演への現場実習への参加で実践的な技術・知識を身につける。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 実際に実務にあたり、実践を行う

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
コンサート実践(1)	企業担当者との現場実習	授業で学んだ知識、技術を活かす場として、コンサート、イベント会場でスタッフとして参加、まずは技術よりも、裏方スタッフとしての礼儀や基本的な動きを学びます。	公益社団法人 定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会 (株)エフェクト
コンサート実践(2)	企業担当者との現場実習	授業で学んだ知識、技術を活かす場として、コンサート、イベント会場でスタッフとして参加、まずは技術よりも、裏方スタッフとしての礼儀や基本的な動きを学びます。	公益社団法人 定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会 (株)エフェクト

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 教職員という立場に於いて、現場での最新の情報・技術・知識を得られる機会は非常に少なく、積極的に研修会等に参加し、学生に享受する知識・技術等を獲得する。また、人間力の向上に向けた指導が出来るよう勉強会、講習会、特別授業の実施をおこなっていく。 なお、現在は「学園規程集」における「教育訓練規程」を別途設けて運用している。	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 #REF!	
(2) 研修等の実績	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: HightSchoolPremiumLive	連携企業等: 宮城県高等学校文化連盟
期間: 2024年8月5日(月)～2024年8月6日(火)	対象: 教員
内容: コンサートの運営、音響照明業務の実践	
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 専門学校の外環境の共有に関するセミナー・会合	連携企業等: 専修学校連合会など
期間: 2023年10月～2024年3月	対象: 学校関係者教職員など
内容: 専門学校が置かれる外環境を適切に認識し、今後の専門教育、学校運営に役立てるための知識共有を行うセミナー・会合に参加する。喫緊では、全国専修学校総合連合会東北ブロック大会への参加も予定している。	
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	

(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	高校生対抗バンド合戦	連携企業等: 宮城県高等学校文化連盟
期間:	2024年11月2、3日(土、日)	対象: 教員
内容	イベントの運営、音響照明業務の実践	
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	専門学校的外部環境の共有に関するセミナー・会合	連携企業等: 専修学校連合会など
期間:	2024年10月～2025年3月	対象: 学校関係者教職員など
内容	専門学校が置かれる外部環境を適切に認識し、今後の専門教育、学校運営に役立てるための知識共有を行うセミナー・会合に参加する。喫緊では、全国専修学校総合連合会東北ブロック大会への参加も予定している。	
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校法人菅原学園専門学校デジタルアーツ仙台が、実践的かつ専門的な職業教育にかかる活動等を評価し、その自己評価結果を企業等の役職員及び学校関係者と評価することにより、学生等が関係業界等のニーズを踏まえた質の高い職業教育を享受することを目的として、学校関係者評価委員会を設け、企業と連携をとり学校運営、教育活動に最大限反映させ、その内容を公開する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	教育成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

自己評価表をもとに、学校関係者評価委員側から人材育成・教育理念、教育内容が「学生・保護者・採用企業・地域社会」等が求めるものと合致しているか、確認している。専門学校は「教育の質の保証」の責任を負っており常に「教育の質」を高める努力が必要であることを再認識した。

具体的には、現場実習を行っている企業からの評価として、コミュニケーションスキルはもちろん必要であるが、物を作るスキルが必要であるとの指摘を受けた。スキルを習熟するために現場を昨年度より増やしより学生により多くの経験を積ませるようにした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
渡邊 孝博	株式会社オンサイト 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
小野寺 千代志	株式会社 EAM 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
布川 博士	岩手県立大学ソフトウェア情報学部 教授	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	有識者
岸浪 行雄	株式会社東北共立 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
金塚 弘	株式会社メディアPR 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
武藤 政寿	公益社団法人 定禅寺ストリートジャズ フェスティバル協会 代表理	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	業界団体
播磨 亮達	株式会社BBグラフィクス 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	業界団体
落合 泰朗	本町新光町内会会長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	町内会
川北 カ斗	卒業生 (株式会社エドワードアンドカンパニー執行役員)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	卒業生

#REF!

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

専門学校は、学生・保護者・採用企業・地域社会に対して「教育の質の保証」の責任を負っていることを認識し、ホームページ等において学校の情報を積極的に公開する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育目標、人材育成像
(2)各学科等の教育	各科の特色
(3)教職員	専任教員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	教育成果
(5)様々な教育活動・教育環境	教育設備
(6)学生の生活支援	学生支援
(7)学生納付金・修学支援	学生募集
(8)学校の財務	財務
(9)学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: <https://www.sugawara.ac.jp/digital/about/jissen/>

公表時期: 令和6年8月

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	講義	演習	授業方法		場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択							実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○			キャリアデザイン(1)	ビジネス能力検定2級取得を目指し、ビジネスマナーを学びます。	1通	60	4	○			○	○			
2	○			キャリアデザイン(2)	履歴書の書き方や面接練習などを就職活動に必要な知識を学びます。	2通	60	4	○			○	○			
3	○			ビジネスソフト実習	就職した際に使用するビジネスソフト(Word, Excel, Illustrator)の操作法を勉強します。	1通	60	4			○	○	○			
4	○			音楽理論	楽譜の読み方や楽曲の構成など、楽曲を分析するために必要な知識を学びます。	1通	60	4	○			○			○	
5	○			基礎電気概論	機材を動作させるために必要な電気の基礎知識を学びます。	1通	60	4	○			○			○	
6	○			舞台機構調整技能講座(1)	舞台機構調整技能士3級の取得を目指し、筆記・要素、それぞれの試験対策の授業を行います。	1通	60	4	○			○	○			
7	○			イベントプロデュース演習	イベントの企画制作を行うために必要な、企画書の書き方や、台本の書き方を学びます。	1通	60	4	○			○			○	
8	○			舞台美術実習	舞台美術やテレビ番組のセットを製作するために必要な知識や技術を学びます。	1通	60	2			○	○			○	
9	○			ステージライティング実習(1)	基本的な舞台照明の仕組みや仕込み方、オペレート方法を学びます。	1通	##	4			○	○	○			
10	○			音響概論	音の仕組みや音響機材の仕組みについて勉強します。	1通	60	4	○			○			○	
11	○			PA・SR実習(1)	音響機材を使用しながら、機材の操作方法や仕込み方を学びます。	1通	##	6			○	○	○			
12	○			レコーディング実習(1)	レコーディング機材の操作方法やマイキングについて学びます。	1通	##	4			○	○			○	
13	○			DAW実習(1)	音楽の編集、収録に必要なDAWソフト(Protools)の操作方法を学びます。	1通	60	2			○	○			○	
14	○			舞台機構調整技能講座(2)	舞台機構調整技能士3級の取得を目指し、筆記・要素、それぞれの試験対策の授業を行います。	1通	##	4	○			○	○			
15	○			デザインソフト実習	チラシの作成や写真加工に必要なデザインソフト(Illustrator, PhotoShop)の操作方法について学びます。	2通	##	4			○	○			○	
16	○			舞台演出実習	ステージの演出方法や構成方法について学びます。	2後	60	2	○			○			○	
17	○			コンサート実践(1)	1年時にコンサートやイベントの現場へ参加し、現場でどのように仕事をしていくかを学びます。	1通	60	2			○	○			○	○
18	○			コンサート実践(2)	1年時にコンサートやイベントの現場へ参加し、現場でどのように仕事をしていくかを学びます。	2通	60	2			○	○			○	○
19	○			ステージライティング実習(2)	ステージライティング実習(1)の応用編。照明機器のオペレーション、特殊な照明機器の取り扱いについて学びます。	2通	##	14			○	○			○	
20	○			舞台照明プランニング実習	舞台照明のプランニング、照明図面の作り方について学びます	2通	##	4			○	○			○	
合計						22	科目	100 単位(単位時間)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 所定の単位を取得し、かつ、卒業判定会議に諮り、学校長がその科の卒業を認定する。	1学年の学期区分	2期
履修方法： 各課程のカリキュラム表に定められた教科目を履修	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																														
専門学校 デジタルアーツ仙台		昭和51年3月31日		菅原 崇博		〒 980-0014 (住所) 宮城県仙台市青葉区本町2丁目11-10 (電話) 022-221-1114																														
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																														
学校法人菅原学園		昭和35年3月26日		菅原 一博		〒 980-0014 (住所) 宮城県仙台市青葉区本町2丁目11-10 (電話) 022-221-1114																														
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
文化・教養	専門課程	ミュージックスタッフ科 PAエンジニアコース		平成22(2010)年度	—	平成27(2015)年度																														
学科の目的	イベント・コンサート業界に従事するために求められる実践的な企画・制作における職業能力、教養を身につけ、業界の発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。																																			
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	コンサート、イベント業界への就職を目指し、業界で活躍する方を講師として迎え、実践的な授業を実施している。資格は舞台機構調整技能検定を受験し、中退率は1.6%。																																			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,980 単位時間 単位		420 単位時間 単位	240 単位時間 単位	1,320 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率																															
120人	122人	0人		0%	2%																															
就職等の状況	<p>■卒業者数(C) : 57人</p> <p>■就職希望者数(D) : 57人</p> <p>■就職者数(E) : 50人</p> <p>■地元就職者数(F) : 23人</p> <p>■就職率(E/D) : 88%</p> <p>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 46%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 88%</p> <p>■進学者数 : 0人</p> <p>■その他</p> <p>卒業者数の割合はミュージックスタッフ科全体の情報です。</p> <p>(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 令和5年度卒業生 株式会社東北シミズ、株式会社ジャパンテレビ、株式会社エンジニア・ライティング、株式会社東北共立、株式会社MSI JAPAN、株式会社響映、</p>																																			
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載			#REF!		評価結果を掲載したホームページURL																														
当該学科のホームページURL	#REF!																																			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,980 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>120 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,980 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>120 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位</td></tr> </table>								総授業時数	1,980 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,980 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間	総単位数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した演習の単位数	単位	うち必修単位数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位
総授業時数	1,980 単位時間																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間																																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																			
うち必修授業時数	1,980 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間																																			
総単位数	単位																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位																																			
うち企業等と連携した演習の単位数	単位																																			
うち必修単位数	単位																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位																																			
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位																																			
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2人	計	3人	2人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3人																																			
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人																																			
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	人																																			
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	人																																			
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2人																																			
計	3人																																			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業が求める人材と、学校の人材教育目標が合致するよう連携を強化する。また、カリキュラムの編成にあたっては、「教育課程編成委員会」の意見の他、実際に講義を行ってもらい、業界知識の獲得を授業内へ取り入れる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校法人菅原学園専門学校デジタルアーツ仙台が、実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程(カリキュラム)の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)に活かすことを目的として、教育課程編成委員会として位置付けている。

活用の流れは、具体的には、学科担任がカリキュラム案を提案、教育課程編成委員会にて審議されたのち、教頭並び

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

#REF!

名前	所属	任期	種別
冬木 真吾	一般社団法人 日本音楽スタジオ協会 理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	①
石川 智英	株式会社東北共立 営業部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	③
日下 邦明	株式会社エフェクト 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	③
武藤 政寿	公益社団法人 定禅寺ストリートジャズ フェスティバル協会 代表理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	①
渡邊 孝博	株式会社オンサイト 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	③
小野寺 千代志	株式会社 EAM 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	③
井村 修	専門学校デジタルアーツ仙台 副校長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	—
石田 拓	専門学校デジタルアーツ仙台 ミュージックスタッフ科 科長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年に2回以上開催する。開催時期については、カリキュラムの検討時期及び、外部委員の方々の都合等を総合的に判断して決定する。

(開催日時(実績))

第1回 令和6年8月27日(火)

第2回 令和7年2月予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

企業と連携をとり、学生が在学中から音楽産業の現場と同様の実習を実施する。また、コミュニケーション能力の重要性をご指摘頂いており、業界で重要とされているコミュニケーション能力をつける指導を取り入れ、希望する業界への就職を目指す。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 実際のコンサート、公演への現場実習への参加で実践的な技術・知識を身につける。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 実際に実務にあたり、実践を行う

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
コンサート実践(1)	企業担当者との現場実習	授業で学んだ知識、技術を活かす場として、コンサート、イベント会場でスタッフとして参加、まずは技術よりも、裏方スタッフとしての礼儀や基本的な動きを学びます。	公益社団法人 定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会 (株)エフェクト
コンサート実践(2)	企業担当者との現場実習	授業で学んだ知識、技術を活かす場として、コンサート、イベント会場でスタッフとして参加、まずは技術よりも、裏方スタッフとしての礼儀や基本的な動きを学びます。	公益社団法人 定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会 (株)エフェクト

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 教職員という立場に於いて、現場での最新の情報・技術・知識を得られる機会は非常に少なく、積極的に研修会等に参加し、学生に享受する知識・技術等を獲得する。また、人間力の向上に向けた指導が出来るよう勉強会、講習会、特別授業の実施をおこなっていく。 なお、現在は「学園規程集」における「教育訓練規程」を別途設けて運用している。	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 #REF!	
(2) 研修等の実績	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: HightSchoolPremiumLive	連携企業等: 宮城県高等学校文化連盟
期間: 2024年8月5日(月)～2024年8月6日(火)	対象: 教員
内容: コンサートの運営、音響照明業務の実践	
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 専門学校の外環境の共有に関するセミナー・会合	連携企業等: 専修学校連合会など
期間: 2023年10月～2024年3月	対象: 学校関係者教職員など
内容: 専門学校が置かれる外環境を適切に認識し、今後の専門教育、学校運営に役立てるための知識共有を行うセミナー・会合に参加する。喫緊では、全国専修学校総合連合会東北ブロック大会への参加も予定している。	
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	

(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	高校生対抗バンド合戦	連携企業等: 宮城県高等学校文化連盟
期間:	2024年11月2、3日(土、日)	対象: 教員
内容	イベントの運営、音響照明業務の実践	
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	専門学校的外部環境の共有に関するセミナー・会合	連携企業等: 専修学校連合会など
期間:	2024年10月～2025年3月	対象: 学校関係者教職員など
内容	専門学校が置かれる外部環境を適切に認識し、今後の専門教育、学校運営に役立てるための知識共有を行うセミナー・会合に参加する。喫緊では、全国専修学校総合連合会東北ブロック大会への参加も予定している。	
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校法人菅原学園専門学校デジタルアーツ仙台が、実践的かつ専門的な職業教育にかかる活動等を評価し、その自己評価結果を企業等の役職員及び学校関係者と評価することにより、学生等が関係業界等のニーズを踏まえた質の高い職業教育を享受することを目的として、学校関係者評価委員会を設け、企業と連携をとり学校運営、教育活動に最大限反映させ、その内容を公開する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	教育成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

自己評価表をもとに、学校関係者評価委員側から人材育成・教育理念、教育内容が「学生・保護者・採用企業・地域社会」等が求めるものと合致しているか、確認している。専門学校は「教育の質の保証」の責任を負っており常に「教育の質」を高める努力が必要であることを再認識した。

具体的には、現場実習を行っている企業からの評価として、コミュニケーションスキルはもちろん必要であるが、物を作るスキルが必要であるとの指摘を受けた。スキルを習熟するために現場を昨年度より増やしより学生により多くの経験を積ませるようにした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
渡邊 孝博	株式会社オンサイト 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
小野寺 千代志	株式会社 EAM 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
布川 博士	岩手県立大学ソフトウェア情報学部 教授	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	有識者
岸浪 行雄	株式会社東北共立 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
金塚 弘	株式会社メディアPR 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
武藤 政寿	公益社団法人 定禅寺ストリートジャズ フェスティバル協会 代表理	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	業界団体
播磨 亮達	株式会社BBグラフィクス 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	業界団体
落合 泰朗	本町新光町内会会長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	町内会
川北 カ斗	卒業生 (株式会社エドワードアンドカンパニー執行役員)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	卒業生

#REF!

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

専門学校は、学生・保護者・採用企業・地域社会に対して「教育の質の保証」の責任を負っていることを認識し、ホームページ等において学校の情報を積極的に公開する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育目標、人材育成像
(2)各学科等の教育	各科の特色
(3)教職員	専任教員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	教育成果
(5)様々な教育活動・教育環境	教育設備
(6)学生の生活支援	学生支援
(7)学生納付金・修学支援	学生募集
(8)学校の財務	財務
(9)学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: <https://www.sugawara.ac.jp/digital/about/jissen/>

公表時期: 令和6年8月

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			キャリアデザイン(1)	ビジネス能力検定2級取得を目指し、ビジネスマナーを学びます。	1通	60	4	○			○	○			
2	○			キャリアデザイン(2)	履歴書の書き方や面接練習などを就職活動に必要な知識を学びます。	2通	60	4	○			○	○			
3	○			ビジネスソフト実習	就職した際に使用するビジネスソフト(Word, Excel, Illustrator)の操作法を勉強します。	1通	60	4			○	○	○			
4	○			音楽理論	楽譜の読み方や楽曲の構成など、楽曲を分析するために必要な知識を学びます。	1通	60	4	○			○			○	
5	○			基礎電気概論	機材を動作させるために必要な電気の基礎知識を学びます。	1通	60	4	○			○			○	
6	○			舞台機構調整技能講座(1)	舞台機構調整技能士3級の取得を目指し、筆記・要素、それぞれの試験対策の授業を行います。	1通	60	4	○			○	○			
7	○			イベントプロデュース演習	イベントの企画制作を行うために必要な、企画書の書き方や、台本の書き方を学びます。	1通	60	4	○			○			○	
8	○			舞台美術実習	舞台美術やテレビ番組のセットを製作するために必要な知識や技術を学びます。	1通	60	2			○	○			○	
9	○			ステージライティング実習(1)	基本的な舞台照明の仕組みや仕込み方、オペレート方法を学びます。	1通	##	4			○	○	○			
10	○			音響概論	音の仕組みや音響機材の仕組みについて勉強します。	1通	60	4	○			○			○	
11	○			PA・SR実習(1)	音響機材を使用しながら、機材の操作方法や仕込み方を学びます。	1通	##	6			○	○	○			
12	○			レコーディング実習(1)	レコーディング機材の操作方法やマイキングについて学びます。	1通	##	4			○	○			○	
13	○			DAW実習(1)	音楽の編集、収録に必要なDAWソフト(Protools)の操作方法を学びます。	1通	60	2			○	○			○	
14	○			舞台機構調整技能講座(2)	舞台機構調整技能士3級の取得を目指し、筆記・要素、それぞれの試験対策の授業を行います。	1通	##	4	○			○	○			
15	○			舞台演出実習	ステージの演出方法や構成方法について学びます。	2後	60	2		○		○			○	
16	○			エンターテイメントビジネス	音楽ビジネスに必要な印税や著作権の知識、現在の音楽市場について学びます。	2通	60	4	○			○			○	
17	○			コンサートプロデュース実習	コンサートやイベントの制作方法や企画書の書き方を実践的に学びます。	2通	##	8			○	○			○	
18	○			デザインソフト実習	チラシの作成や写真加工に必要なデザインソフト(Illustrator, PhotoShop)の操作方法について学びます。	2通	##	4			○	○			○	
19	○			プロモーション演習	広報活動において必要なメディアの知識やアポイントメントの取り方、プロモーションまでの段取りについて学びます。	2通	##	8		○		○	○	○		
20	○			ステージ企画・構成演習	イベント制作における企画・演出について学びます。	2通	##	8		○		○	○	○		
合計						22	科目	92 単位(単位時間)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等
卒業要件： 所定の単位を取得し、かつ、卒業判定会議に諮り、学校長がその科	1学年の学期区分
履修方法： 各課程のカリキュラム表に定められた教科目を履修	1学期の授業期間
	2期
	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																						
専門学校 デジタルアーツ仙台		昭和51年3月31日		菅原 崇博		〒 980-0014 (住所) 宮城県仙台市青葉区本町2丁目11-10 (電話) 022-221-1114																																						
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																						
学校法人菅原学園		昭和35年3月26日		菅原 一博		〒 980-0014 (住所) 宮城県仙台市青葉区本町2丁目11-10 (電話) 022-221-1114																																						
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																																						
文化・教養	専門課程	ミュージックスタッフ科 レコーディング・MAコース		平成22(2010)年度	—	平成27(2015)年度																																						
学科の目的	イベント・コンサート業界に従事するために求められる実践的な企画・制作における職業能力、教養を身につけ、業界の発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。																																											
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	コンサート、イベント業界への就職を目指し、業界で活躍する方を講師として迎え、実践的な授業を実施している。資格は舞台機構調整技能検定を受験し、中退率は1.6%。																																											
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																																				
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,980 単位時間 単位		420 単位時間 単位	240 単位時間 単位	1,320 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位																																				
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率																																							
120人	122人	0人		0%	2%																																							
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>:</td><td>57</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>:</td><td>57</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>:</td><td>50</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>:</td><td>23</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>:</td><td>88</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>:</td><td>46</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>:</td><td>88</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>:</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td>:</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>卒業者数の割合はミュージックスタッフ科全体の情報です。</p> <p>(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 令和5年度卒業生 株式会社東北シミズ、株式会社ジャパンテレビ、株式会社エンジニア・ライティング、株式会社東北共立、株式会社MSI JAPAN、株式会社響映、</p>								■卒業者数(C)	:	57	人	■就職希望者数(D)	:	57	人	■就職者数(E)	:	50	人	■地元就職者数(F)	:	23	人	■就職率(E/D)	:	88	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	46	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	88	%	■進学者数	:	0	人	■その他	:		
■卒業者数(C)	:	57	人																																									
■就職希望者数(D)	:	57	人																																									
■就職者数(E)	:	50	人																																									
■地元就職者数(F)	:	23	人																																									
■就職率(E/D)	:	88	%																																									
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	46	%																																									
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	88	%																																									
■進学者数	:	0	人																																									
■その他	:																																											
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: _____ 受審年月: _____ 評価結果を掲載したホームページURL _____</p>																																											
当該学科のホームページURL	#REF!																																											
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,980 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>120 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,980 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>120 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位</td></tr> </table>								総授業時数	1,980 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,980 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間	総単位数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した演習の単位数	単位	うち必修単位数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位								
総授業時数	1,980 単位時間																																											
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間																																											
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																											
うち必修授業時数	1,980 単位時間																																											
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間																																											
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																											
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間																																											
総単位数	単位																																											
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位																																											
うち企業等と連携した演習の単位数	単位																																											
うち必修単位数	単位																																											
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位																																											
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位																																											
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位																																											
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>2人</p>								① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2人	計	3人																								
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3人																																											
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人																																											
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	人																																											
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	人																																											
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2人																																											
計	3人																																											

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業が求める人材と、学校の人材教育目標が合致するよう連携を強化する。また、カリキュラムの編成にあたっては、「教育課程編成委員会」の意見の他、実際に講義を行ってもらい、業界知識の獲得を授業内へ取り入れる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校法人菅原学園専門学校デジタルアーツ仙台が、実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程(カリキュラム)の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)に活かすことを目的として、教育課程編成委員会として位置付けている。

活用の流れは、具体的には、学科担任がカリキュラム案を提案、教育課程編成委員会にて審議されたのち、教頭並び

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

#REF!

名前	所属	任期	種別
冬木 真吾	一般社団法人 日本音楽スタジオ協会 理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	①
石川 智英	株式会社東北共立 営業部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	③
日下 邦明	株式会社エフェクト 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	③
武藤 政寿	公益社団法人 定禅寺ストリートジャズ フェスティバル協会 代表理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	①
渡邊 孝博	株式会社オンサイト 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	③
小野寺 千代志	株式会社 EAM 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	③
井村 修	専門学校デジタルアーツ仙台 副校長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	—
石田 拓	専門学校デジタルアーツ仙台 ミュージックスタッフ科 科長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年に2回以上開催する。開催時期については、カリキュラムの検討時期及び、外部委員の方々の都合等を総合的に判断して決定する。

(開催日時(実績))

第1回 令和6年8月27日(火)

第2回 令和7年2月予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

企業と連携をとり、学生が在学中から音楽産業の現場と同様の実習を実施する。また、コミュニケーション能力の重要性をご指摘頂いており、業界で重要とされているコミュニケーション能力をつける指導を取り入れ、希望する業界への就職を目指す。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 実際のコンサート、公演への現場実習への参加で実践的な技術・知識を身につける。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 実際に実務にあたり、実践を行う

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
コンサート実践(1)	企業担当者との現場実習	授業で学んだ知識、技術を活かす場として、コンサート、イベント会場でスタッフとして参加、まずは技術よりも、裏方スタッフとしての礼儀や基本的な動きを学びます。	公益社団法人 定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会 (株)エフェクト
コンサート実践(2)	企業担当者との現場実習	授業で学んだ知識、技術を活かす場として、コンサート、イベント会場でスタッフとして参加、まずは技術よりも、裏方スタッフとしての礼儀や基本的な動きを学びます。	公益社団法人 定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会 (株)エフェクト

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 教職員という立場に於いて、現場での最新の情報・技術・知識を得られる機会は非常に少なく、積極的に研修会等に参加し、学生に享受する知識・技術等を獲得する。また、人間力の向上に向けた指導が出来るよう勉強会、講習会、特別授業の実施をおこなっていく。 なお、現在は「学園規程集」における「教育訓練規程」を別途設けて運用している。	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 #REF!	
(2) 研修等の実績	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: HightSchoolPremiumLive	連携企業等: 宮城県高等学校文化連盟
期間: 2024年8月5日(月)～2024年8月6日(火)	対象: 教員
内容: コンサートの運営、音響照明業務の実践	
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 専門学校的外部環境の共有に関するセミナー・会合	連携企業等: 専修学校連合会など
期間: 2023年10月～2024年3月	対象: 学校関係者教職員など
内容: 専門学校が置かれる外部環境を適切に認識し、今後の専門教育、学校運営に役立てるための知識共有を行うセミナー・会合に参加する。喫緊では、全国専修学校総合連合会東北ブロック大会への参加も予定している。	
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	

(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	高校生対抗バンド合戦	連携企業等: 宮城県高等学校文化連盟
期間:	2024年11月2、3日(土、日)	対象: 教員
内容	イベントの運営、音響照明業務の実践	
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	専門学校の外部環境の共有に関するセミナー・会合	連携企業等: 専修学校連合会など
期間:	2024年10月～2025年3月	対象: 学校関係者教職員など
内容	専門学校が置かれる外部環境を適切に認識し、今後の専門教育、学校運営に役立てるための知識共有を行うセミナー・会合に参加する。喫緊では、全国専修学校総合連合会東北ブロック大会への参加も予定している。	
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校法人菅原学園専門学校デジタルアーツ仙台が、実践的かつ専門的な職業教育にかかる活動等を評価し、その自己評価結果を企業等の役職員及び学校関係者と評価することにより、学生等が関係業界等のニーズを踏まえた質の高い職業教育を享受することを目的として、学校関係者評価委員会を設け、企業と連携をとり学校運営、教育活動に最大限反映させ、その内容を公開する

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	教育成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

自己評価表をもとに、学校関係者評価委員側から人材育成・教育理念、教育内容が「学生・保護者・採用企業・地域社会」等が求めるものと合致しているか、確認している。専門学校は「教育の質の保証」の責任を負っており常に「教育の質」を高める努力が必要であることを再認識した。

具体的には、現場実習を行っている企業からの評価として、コミュニケーションスキルはもちろん必要であるが、物を作るスキルが必要であるとの指摘を受けた。スキルを習熟するために現場を昨年度より増やしより学生により多くの経験を積ませるようにした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

#REF!

名前	所属	任期	種別
渡邊 孝博	株式会社オンサイト 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
小野寺 千代志	株式会社 EAM 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
布川 博士	岩手県立大学ソフトウェア情報学部 教授	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	有識者
岸浪 行雄	株式会社東北共立 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
金塚 弘	株式会社メディアPR 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
武藤 政寿	公益社団法人 定禅寺ストリートジャズ フェスティバル協会 代表理	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	業界団体
播磨 亮達	株式会社BBグラフィクス 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	業界団体
落合 泰朗	本町新光町内会会長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	町内会
川北 カ斗	卒業生 (株式会社エドワードアンドカンパニー執行役員)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	卒業生
#REF!	#REF!	#REF!	#REF!
#REF!	#REF!	#REF!	#REF!
#REF!	#REF!	#REF!	#REF!
#REF!	#REF!	#REF!	#REF!
#REF!	#REF!	#REF!	#REF!

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

専門学校は、学生・保護者・採用企業・地域社会に対して「教育の質の保証」の責任を負っていることを認識し、ホームページ等において学校の情報を積極的に公開する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育目標、人材育成像
(2)各学科等の教育	各科の特色
(3)教職員	専任教員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	教育成果
(5)様々な教育活動・教育環境	教育設備
(6)学生の生活支援	学生支援
(7)学生納付金・修学支援	学生募集
(8)学校の財務	財務
(9)学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.sugawara.ac.jp/digital/about/jissen/>

公表時期: 令和6年8月

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	講義	演習	授業方法		場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択							実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○			キャリアデザイン(1)	ビジネス能力検定2級取得を目指し、ビジネスマナーを学びます。	1通	60	4	○			○	○			
2	○			キャリアデザイン(2)	履歴書の書き方や面接練習などを就職活動に必要な知識を学びます。	2通	60	4	○			○	○			
3	○			ビジネスソフト実習	就職した際に使用するビジネスソフト(Word, Excel, Illustrator)の操作法を勉強します。	1通	60	4			○	○	○			
4	○			音楽理論	楽譜の読み方や楽曲の構成など、楽曲を分析するために必要な知識を学びます。	1通	60	4	○			○			○	
5	○			基礎電気概論	機材を動作させるために必要な電気の基礎知識を学びます。	1通	60	4	○			○			○	
6	○			舞台機構調整技能講座(1)	舞台機構調整技能士3級の取得を目指し、筆記・要素、それぞれの試験対策の授業を行います。	1通	60	4	○			○	○			
7	○			イベントプロデュース演習	イベントの企画制作を行うために必要な、企画書の書き方や、台本の書き方を学びます。	1通	60	4	○			○			○	
8	○			舞台美術実習	舞台美術やテレビ番組のセットを製作するために必要な知識や技術を学びます。	1通	60	2			○	○			○	
9	○			ステージライティング実習(1)	基本的な舞台照明の仕組みや仕込み方、オペレート方法を学びます。	1通	##	4			○	○	○			
10	○			音響概論	音の仕組みや音響機材の仕組みについて勉強します。	1通	60	4	○			○			○	
11	○			PA・SR実習(1)	音響機材を使用しながら、機材の操作方法や仕込み方を学びます。	1通	##	6			○	○	○			
12	○			レコーディング実習(1)	レコーディング機材の操作方法やマイキングについて学びます。	1通	##	4			○	○			○	
13	○			DAW実習(1)	音楽の編集、収録に必要なDAWソフト(Protools)の操作方法を学びます。	1通	60	2			○	○			○	
14	○			舞台機構調整技能講座(2)	舞台機構調整技能士3級の取得を目指し、筆記・要素、それぞれの試験対策の授業を行います。	1通	##	4	○			○	○			
15	○			JAPRS SR 検定対策	JAPRS主催・サウンドレコーディング検定の高ランクを目指し、レコーディングの知識を学びます	2前	60	4	○					○		
16	○			JAPRS PT 検定対策	JAPRS主催・プロツールズ検定の高ランク取得を目指しプロツールズについて学びます。	2前	60	4	○					○		
17	○			DAW 実 習 (2)	DAW実習(1)の応用編。実際にレコーディングされた音源を活用し、編集技法を学びます。	2通	##	4			○				○	
18	○			コンサート実践(1)	1年時にコンサートやイベントの現場へ参加し、現場でどのように仕事をしていくかを学びます。	1通	60	2			○	○	○	○		
19	○			コンサート実践(2)	1年時にコンサートやイベントの現場へ参加し、現場でどのように仕事をしていくかを学びます。	2通	60	2			○	○	○	○		
20	○			レコーディング実習(2)	レコーディング機材の操作方法やマイキングについて学びます。	1通	##	4			○	○			○	
合計						20	科目	74 単位(単位時間)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 所定の単位を取得し、かつ、卒業判定会議に諮り、学校長がその科の卒業を認定する。	1学年の学期区分	2期
履修方法： 各課程のカリキュラム表に定められた教科目を履修	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。